チャレンジ！！オープンガバナンス 2020 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注１）	No.	タイトル	自治体名
	（事務局用）	過疎化と高齢化の進む集落群と買い物・福祉医療等の拠点地域を効果的につなぐ方法	山形県鶴岡市
チームがつけたアイデア名（注 2）（公開）	デマンド型タクシーを活用した高齢者に優しい地域公共交通体制の構築		

（注１）地域課題タイトルは、COG2020 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注 2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

１．応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	大東文化大学　社会学部　阿部ゼミ　地域公共交通チーム	
チーム属性（公開）	１．市民、2．市民／学生混成、３．学生	**2**
メンバー数（公開）	５名	
代表者（公開）	成田　信一	
メンバー（公開）	板垣　久喜 町田　未来 星　侑那 勝田進太郎	

【注意書き】※　必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

１．　応募の際は、ファイル名を COG2020_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2020 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2020@pp.u-tokyo.ac.jp

＜応募内容の公開＞

２．　アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。

３．　公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示ー非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

（具体的なライセンスの条件につきましては、https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja、および、https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja　をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。https://creativecommons.jp/licenses/）

４．　上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）

５．　この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

＜知的所有権等の取扱い＞

６．「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。

７．「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2．の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧下さい。）

2．アイデアの説明（公開）　(1) アイデアの内容（公開）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認	（○）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、これこれの課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、**魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたくなる**、そしてその結果として、課題が解決される、そんな**わくわく感のあるアイデア**を期待します。**2ページ以内**でご記入ください。

＜応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください＞

・過疎化と高齢化が進む中での地域公共交通の空白地域における高齢者の生活問題の改善。
・高齢者の方が出かけたくなる、安心して通院できる地域公共交通システムの構築
・行政依存型から住民主体による地域公共交通体制の構築にむけた意識喚起の課題

＜この課題解決のためのアイデアが具体的に実行される場面を想定してください。そこで・・・＞
＜「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます＞
＜よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です＞

【現状】

鶴岡市藤島地域

【鶴岡市藤島地域の高齢化率 37.1%】
＜長沼地区40.7%、八栄島地区39.6%＞
【藤島地域でもっと高い高齢化率】

【鶴岡市藤島地域＜八栄島・長沼地区＞の公共交通】
1999 年　庄内交通バス路線廃止（鶴岡～押切線）
2000 年　町営バス「ぽっぽ号」運行（2003 年廃止）、

↓

2015 年以降から地域課題として「交通不便」問題と新たな地域交通の導入課題

↑

農村地域の高齢化・過疎化
自動車利用前提の社会
地域の商店・医療施設の廃業
高齢者の交通事故増加
免許返納の困難さ
買い物・医療弱者の増加

●鶴岡市藤島地域は、1999 年に庄内交通（鶴岡～押切線）が廃止され、町営バス「ぽっぽ号」を運行していたが、利用者が伸び悩み低迷。それ以降、**地域公共交通空白地域と**なっている。特に藤島地域で**最も高齢化率が高いのは、長沼地区 40.7%、八栄島地区 39.6%である。**
●買い物弱者対策の拠点となっていた**「藤島ふれあいセンター」が 9 月に閉店し、空き店舗活用問題**が浮上。
●一方で自動車利用が前提の農村地域での高齢者の交通事故の増加と自主返納の困難があり、運転できない・運転しない高齢者数が増大している。
●また、地域の商店・医療施設の縮小・移転・廃業があり、**目的地の遠隔化と買い物・医療弱者による地域住民の移動の確保が問題化している。**

そこで、**現状を改善するために「デマンド型タクシーを活用した高齢者に優しい地域公共交通体制の構築」を提案する。**

2．アイデアの説明（公開）　(1) アイデアの内容（公開）

地域住民が自らの地域公共交通の問題に対して、来年度に「デマンド型タクシー」を導入し、地域の高齢者が気兼ねなく、安心して、買い物や通院に行ける街にする。

●八栄島地域と長沼地域において、新たな地域公共交通として「デマンド型タクシー」を導入し、買い物・医療弱者の克服と地域の高齢者が気兼ねなく、安心して、買い物や通院に行ける街にする。
●地域の住民が、行政に依存するのではなく、自分たちの地域の公共交通問題の在り方を再認識し、「自分たちの足は、自分たちの地域の問題」として地域課題として積極的に関わり、課題意識を持ってもらう。

2019 年

●長沼地区・八栄島地区での「地域公共交通ワークショップ」の開催し、自分たちの地域交通の現状を知っても

- ●「デマンド型タクシーの導入事例」などの勉強会の実施と先進地域事例の紹介
- ●普段、利用している店舗・病院の利用状況の把握と交通ルートのマッピング作業

2020 年

●「地域住民意識調査」を実施し、客観的なデータによる分析と走行ルートおよび利用予測の提案

- ●地域住民における「地域課題の意識化」と地域課題解決を目指す協力体制の構築へ
- ●「長沼地区・八栄島地区地域公共交通検討委員会」の設置
- ●「地域住民意識調査」の結果から示された走行ルートでのモニターテストの実施

2021 年

●デマンド型タクシーを導入し、地域の高齢者が気兼ねなく、安心して、買い物や通院に行ける街にする。

- ●デマンド型タクシーの実証走行と利用者調査の実施による持続可能なシステム構築
- ●利用促進に向けた体験乗車イベント、免許返納割引や利用回数に応じたポイント特典
- ●「人と交流できる場」や「外に出ることが楽しいといった」が実感出来る活動拠点の整備

【対象地域の概要】
●鶴岡市藤島地域は、人口 9,887 人（2020 年 5 月 31 日現在・鶴岡市 web ページより）
●鶴岡市藤島地域の高齢化率 37.1%であるが、八栄島地区 39.6%、長沼地区 40.7%と大きい。
●かつては、地域には商店街などがあり、生鮮食料品には不自由しなかったが、現在は駄菓子店 1 店のみ。
●2001 年にオープンした藤島地区にある「ふじしまふれあいセンター」は、周辺地域の買い物弱者や交流の拠点として機能していたが、利用率の低迷から 9 月に閉店し、現在空き店舗利活用問題が浮上している。

2．アイデアの説明（公開）　　(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それを**サポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明**してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

＜このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます＞
＜先の（１）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」これをやりたいのかの思いを上記のデータを示しつつ書いていきます＞

鶴岡市の地域公共交通を取り巻く課題

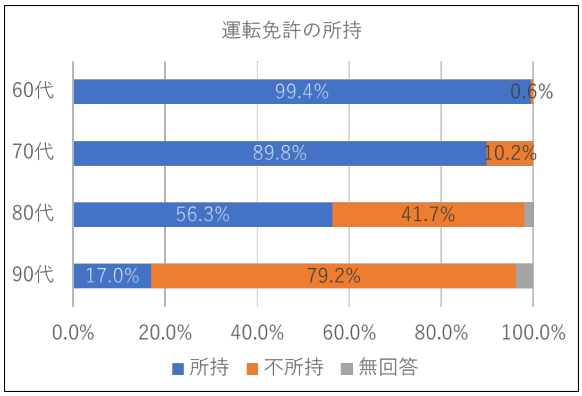
- まちづくりと連動した公共交通網の形成の必要性
- 市民協働による持続的な公共交通体系の確保が必要
- 既存資源を有効活用した利用者ニーズへの対応が必要
- 買い物・福祉医療等の拠点地域を効果的に繋ぐ体制

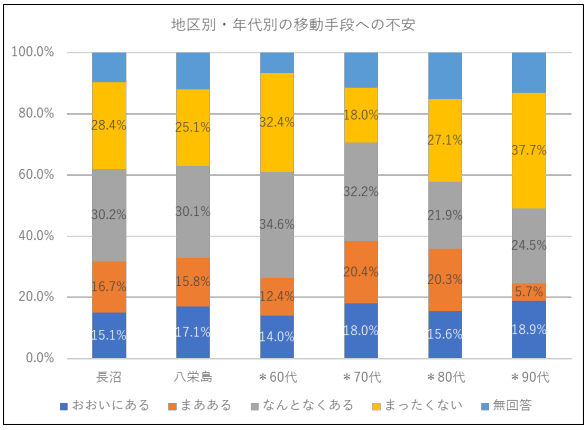
大東文化大学・阿部ゼミ

- 地域住民のニーズの把握
- 客観的なデータの提示
- 地域住民と一緒に考える
- 住民に寄り添った課題提案

「長沼・八栄島地区・地域公共交通住民意識調査」の実施＜2020 年 2 月実施＞

- 【長沼地区・八栄島地区に居住する 60 歳以上の方】
  回収率　長沼地区 451 人、八栄島地区 392 人の合計 843 人
  有効回答数 823（配布数に対する有効回答率 91.0%）





【運転免許について】

年代が上がるほど免許証の保有率が下がる。60 代は運転免許の返納は意識していないものの、70 代以上ではその半数が「運転が不安になったら」返納を考えていた。

また、「運転が不安になったら」方の半数が、【デマンド型タクシーを利用する】と答え、逆に返納を「考えていない」方の半数が【デマンド型タクシー利用しないと思う】と答えている。

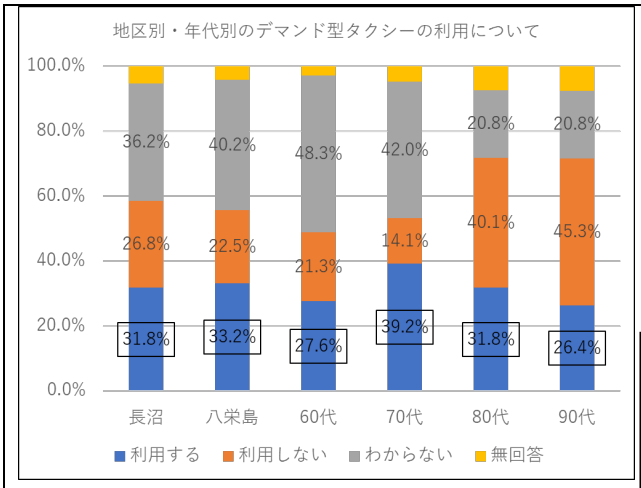
【今後の移動手段について】

半数以上が、なんらかの今後の移動手段に不安を抱えていた。一方で、年代が上がるにつれて「まったくない」が増えるなど、親族による送迎依頼などのサポートがされていることが関係にあるかもしれない。また、理由（自由記述）については、約 4 割が記入しており、数値には出てこない、様々な今後の移動手段への不安が書かれていた。

デマンド型タクシーについては、3 割が「利用する」と答えている。特に 70 代での「利用する」が 4 割となっている。一方で、日常的に運転を行う 60 代の半数が「わからない」と答え、送迎体制がある 90 代では「利用しない」が 4 割強となった。

2．アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）



60～70 代は、「買い物」利用が、80～90 代は「通院」の利用が強い。その用途によって、年代によって異なる利用時間設定が必要である。

また、目的地も長沼地区は、「藤島地域」のみならず、鶴岡市外である「余目方面」、「三川方面」が強い、一方で八栄島地域では、「藤島地域内」・「鶴岡市街地」の傾向が強い。

- ●親族でも実際は、送迎を頼みにくいという本音
- ●生活圏の違いから、市外を跨ぐルートの必要性
- ●4 割の「利用するかわからない」潜在層の取り込み

鶴岡の長沼、八栄島地区

デマンド型タクシー提案

大東文化大生ら オンライン報告会

鶴岡市藤島地域の長沼、八栄島地区での地域公共交通導入に向け、調査に取り組んできた大東文化大（東京）関係者のオンライン報告会が12日、長沼地区地域活動センターで開かれた。二つのルートを設定した予約制のデマンド型タクシー運行といった提案があり、両地区は合同の検討委員会を組織するなどして具体化を図ることになった。

両地区は、路線バスが1999年に廃止され、2000年から運行された旧町営バスも利用者の減少で廃止となって以降、公共交通の空白地域となっている。市は、地域まちづくり未来事業の一環として同大に地域公共交通に関する調査を委託。阿部英之助社会学部准教授とゼミの学生が昨年度、ワークショップや60歳以上の住民を対象としたアンケートなどを行った。

報告会には住民や市の関係者など約30人が訪れ、阿部准教授とゼミの3年生3人がそれぞれの自宅から説明。デマンド型タクシー導入のアンケートでは、両地区とも回答者の約3割が「利用する」と答える一方、「分からない」が4割ほどあり、情報提供や呼び掛けが利用促進の鍵と指摘した。午前9時～正午、午後1～3時を中心としたダイヤ編成とし、「三川町・余目（庄内町）」「藤島地域内・鶴岡市街地」の2ルートを確保によって交互に運行する方法を提案した。

報告会は両地区の自治振興会と市が主催。当初は3月に予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い延期していた。両地区は今回の調査結果と提案に基づき、来月中をめどに合同の検討委員会を組織して運行計画の策定など通会議での承認を得た後に運営協議会を設立し、来年2月にも実証運行を開始する方針。同大が利用状況の調査に当たる。

学生らが地域公共交通に関する調査結果をオンラインで報告した＝鶴岡市長沼地区地域活動センター

山形新聞（2020 年 6 月 16 日）

鶴岡・藤島地域 デマンドタクシー導入案

モニター試験運行開始

利用予測やルート検証

鶴岡市藤島地域の長沼、八栄島両地区でのデマンド型タクシー導入に向け、モニターテスト運行が行われている。10日まで続けて利用実態の予測、ルートの検証などを進め、来年度の実証運行開始を目指す。

両地区は、1999年に路線バスが廃止され、2000年から運行された旧町営バスも利用者減少で廃止となって以降、公共交通の空白地域となっている。市は、地域まちづくり未来事業の一環として同大に地域公共交通に関する調査を委託し、阿部准教授とゼミの学生3人がそれぞれの自宅から説明。デマンド型タクシー導入のアンケートでは、両地区とも回答者の約3割が「利用する」と答える一方、「分からない」が4割ほどあり、情報提供や呼び掛けが利用促進の鍵と指摘した。午前9時～正午、午後1～3時を中心としたダイヤ編成とし、「三川町・余目（庄内町）」「藤島地域内・鶴岡市街地」の2ルートを確保によって交互に運行する方法を提案した。

報告会は両地区の自治振興会と市が主催。当初は3月に予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い延期していた。両地区は今回の調査結果と提案に基づき、来月中をめどに合同の検討委員会を組織して運行計画の策定など通会議での承認を得た後に運営協議会を設立し、来年2月にも実証運行を開始する方針。同大が利用状況の調査に当たる。

モニターテスト運行は藤島・鶴岡、三川町、庄内町の3ルートで、医院やスーパー、公共施設などに乗降場所を設定。5日に開始し、ルートごとに運行日を決めて3往復ずつ走らせている。モニターは70～90代の29人で、運行業者に前日に予約して自宅から乗車し、帰りも自宅まで送られる。実際の運賃はバス料金を参考に200～800円を想定しているが、テスト運行では無料としている。

八栄島地区のモニターの布川ツル子さん（77）は、藤島地区のスーパー「Aコープふじしま店」への買い物にデマンド型タクシーを活用。「着いてから帰りの便まで2時間ほどあり、持て余してしまうが、自分で運転できなくなったときのことを考えると、運行はありがたい」と話していた。

長沼、八栄島両地区の自治振興会長や町内会長などでつくる検討委員会が今後、モニターのアンケート回答などに基づき運行計画の素案作りを進める。11～12月に運営協議会を設け、市地域公共交通会議の承認や国の許可を得て、来年4～6月に実証運行を始めたいとしている。（三沢秀樹）

デマンド型タクシー導入に向けたテスト運行に参加し、車に乗り込むモニター＝鶴岡市・Aコープふじしま店

荘内日報（2020 年 10 月 10）

●モニターテスト運行の予約希望者 29 名、有効回答数 24 名（配布数に対する有効回答率 96.0%）

- ●デマンド型タクシーの内容については、75%が「理解できた」と回答
- ●デマンド型タクシーの乗車への感想としては、75%が「とても満足」と回答
- ●次回のデマンド型タクシー利用については、約 8 割が「利用したい」と回答するも、便数および迎えの時間の設定については、約 6 割近くが「この便数・時刻で良い」と回答していたが、約 3 割弱が「修正してほしいと」と回答しており、修正の大部分が、時刻に関する点であった。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法**、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス、**実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまず＞

●提案①　長沼・地区八栄島地区・におけるデマンド型タクシーによる地域公共交通の導入

【提案理由】

過去に利用者の減少で公共交通が廃止となっている地域であり、利用者の有無にかかわらず毎日決まった本数が運行される方式よりも、住民の方から予約が入ったときのみに運行されるデマンド型交通（デマンド型タクシー）が地域の特性に合っている。

【利用促進に向けたアイデア】

- ●運行の委託は、一般乗合旅客自動車運送事業の許可が有する「庄交ハイヤー」にお願いする。
- ●「長沼・八栄島地区・地域公共交通住民意識調査」から導いた走行ルートの提案
- ●「長沼・地区八栄島地区・地域公共交通モニターテストによる走行ルートの修正
- ●生活圏であるが近隣の三川町や庄内町への対策

　　⇒規制緩和を行い、鶴岡市外への乗り入れ利用者の拡大

【住民意識調査から提案した走行ルート】

●提案②　デマンド型タクシー導入後における利用促進の取り組み

【提案理由】
せっかく導入しても利用者数が少なければ、意味がない。持続可能な地域公共交通システムを構築する必要がある。そのための利用促進に向けたアイデアが必要である。

【利用促進に向けたアイデア】
- ●周知・広報活動【パンフレット・チラシ・メディア】
- ●利用促進の取り組み【自治会・敬老会など通した広報】
- ●住民説明会と体験乗車会などの開催
- ●免許返納割引や利用距離・回数に応じたポイント制の特典
- ●「人と交流できる場」や「外に出ることが楽しいといった」の実感。
- ●予約は、電話や FAX より簡単な高齢者の方が利用しやすい「アプリ」開発
- ●運行ダイヤ・発着地の組み合わせの検討
- ●今後の単独夫婦世帯へのサポートも必要である。
- ●大東文化大社会学部・阿部ゼミによるアフターフォロー
  ⇒利用者状況調査による改善提案

【モニター調査から修正した時刻設定】

	第1便	第2便	第3便	備考
往路（自宅⇒乗降場所）	8：00	9:15	13:00	長沼・八栄島（自宅）発の時刻
復路（乗降場所⇒自宅）	11：30	13:30	16:30	乗降場所発の時刻

	第1便	第2便	第3便	備考
往路（自宅⇒乗降場所）	8：00	9:15	12:30	長沼・八栄島（自宅）発の時刻
復路（乗降場所⇒自宅）	11：30	13:30	16:30	乗降場所発の時刻

往路第3便・13：00を12：30に変更、
復路の第2便・13:30に接続できるようする。

●提案③　空き店舗を活用した地域住民の拠点化とチャレンジショップの運営

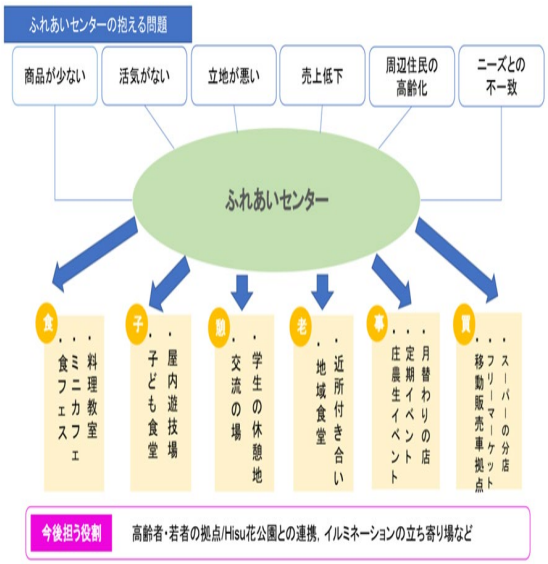
提案理由＜昨年にも提案したが、新型コロナウィルスの影響により現在、中止となっている＞

一昨年 9 月に閉店した「ふじしまふれあいセンター」は、近隣に藤島庁舎や農業高校や小学校があり、住民や高校生の休憩・交流の場として活用できる。また、閉店の原因となった利用者の減少に関しても、八栄島・長沼地区のデマンド型タクシーにおいて「ふじしまふれあいセンター」を乗降地の 1 つとして設定し、新たに拠点づくりとする。

●平日の昼は、高齢者に対する食事支援。

●夕方は、鶴岡市で二番目となる「子ども食堂と学習支援施設」

●食材提供は、給食センターに食材を提供している「さんさん畑の会」を想定している。



●提案④　新型コロナウィルス感染症による地域と大学との新たな交流のあり方

【提案理由】

新型コロナウィルス感染症により、昨年のような現地調査やゼミ活動そのものも満足に行うことが出来なった。そのような中で、新たな地域と大学との交流のあり方を模索したい。

【コロナ禍におけるゼミ活動】

⇒学外活動全面自粛下の COG 報告〈2019 年 3 月〉

⇒前期授業の開始延期〈5 月中旬〉

⇒オンラインによる授業開始

⇒未だに、ゼミ生全員とは一度も会えず

⇒宿泊を伴う学外活動禁止

【交流のあり方に向けた課題とアイデア】

●Zoom を活用したことで、現地に訪れなくても、現地との交流できるが、学生一人一人が現地のことを肌身で感じることは、Zoom では限界がある。

●現に訪問する場合は、感染対策として学生の 2 週間前からの検温と健康チェックシートの記入による体調管理の徹底（健康チェックアプリ）。

●大学の許可を得て訪問できた場合は、飛沫防止シートの使用し、マスク、手指消毒、フェイスシールドの装着をする。

●現地を肌身に感じる手段として、Google マップや地図アプリなど活用するが、学生の PC スキルからして、限界の部分もあり、そのようなソフトを開発している会社からレクチャーを受けたい。

●対面授業および学生による活動に対して委縮している大学を応援する企業との連携やサポートが欲しい。